様式第３号（第５、第６の１、第６の２関係）（その１）

警 察 署 協 議 会 会 長 連 絡 会 議 録

開催年月日時	平成３１年２月７日　午後３時００分　から 平成３１年２月７日　午後４時４５分　まで	
開 催 場 所	博多サンヒルズホテル	
出　席　者	公 安 委 員 会	公安委員長以下５名
	警察署協議会	各警察署協議会会長等 ３４名
	警 察 本 部	本部長、総務部長、警務部長、生活安全部長、地域部長、刑事部長、暴力団対策部長、交通部長、警備部長、首席監察官、総務課長

議　事　概　要

【開会】

【第一部】

〈公安委員会委員長挨拶（要旨）〉

○　警察署協議会委員の御尽力により、地域の安全・安心に対する意識が大いに高まるとともに、地元警察署が奮闘してくれたことで、犯罪の発生件数が１６年連続で減少するなど、大きな成果となって表れている。

○　我々公安委員会は、各警察署協議会へ随時出席しており地域の安全に関する問題等について活発な協議や活動が行われていることを大変心強く感じている。

○　本日は、３警察署協議会からの活動報告はもとより、皆様が日頃の活動で感じていることについても活発な御意見をいただき、公安委員会としても今後の活動にいかしていきたいと考えている。

〈警察本部からの報告〉

１　平成３０年中の治安概況及び２０１９年福岡県警察運営指針等について（本部長）

（Ａ４）

様式第３号（第５、第６の１、第６の２関係）（その２）

議　事　概　要
⑴　平成３０年中の治安概況 三大重点目標及び重点目標に対する、昨年の成果や課題等について説明 ⑵　２０１９年福岡県警察運営指針等 福岡県警察運営指針、三大重点目標及び重点目標の設定理由等について説明 **２　自治体による街頭防犯カメラの補助事業等について（生活安全部長）** ⑴　町内会等が活用できる補助事業 福岡県性犯罪防止対策防犯カメラ設置支援事業等について説明 ⑵　団体等の取組 団体による防犯ＣＳＲ活動及び官民連携による協議会の設置について説明 **〈警察本部からの報告に対する質疑等〉** ○　出席者から、「ニセ電話詐欺に関して、昨年中の逮捕者の年齢別の構成はどのようになっているのか。」旨の質疑があり、本部長から、「５８人検挙したうち、１０人が少年であった。職業別では高校生が３人、大学生が３人、仕事を持っている者が１７人、無職が３５人である。」旨の回答があった。 **【第二部】** **〈警察署協議会からの活動報告等〉** **１　小倉北警察署協議会の活動報告（小倉北警察署協議会会長）** ⑴　小倉北区の繁華街における客引き対策を通じた学生への啓発について ○　繁華街等における風俗営業店や居酒屋等による客引き行為の増加が、繁華街等の健全な賑わいを阻害 ○　居酒屋等による違法・迷惑な客引きの防止を図るため、地元商店街組合を主体とした、小倉繁華街客引き適正化協議会を設立 ○　大学で勤務する警察署協議会委員から、居酒屋等アルバイト先での客引き行為に関する危険性について指導方法の要望がなされた。 ○　要望に対して、大学等教職員を対象とした啓発講座が開催され、今後、大学と協働した客引き防止啓発ポスターの作成や新入生ガイダンスにおける啓発講座の開催が予定されている。

（Ａ４）

様式第３号（第５、第６の１、第６の２関係）（その２）

議　事　概　要
(2) 質疑応答等 ○　出席者から、「客引きに関する通報が増加した原因及び小倉繁華街客引き適正化協議会設立による効果について教えていただきたい。」旨の質疑があり、報告者から、「通報が増加した原因としては、官民一体の活動による暴力団排除活動と相まって、小倉の繁華街のイメージや治安が大きく改善されたことや、北九州市が九州の玄関口として県内外はもちろん、海外からも多くの観光客が訪れるようになったことなどから、繁華街の集客が増え、それに伴い客引きが増えたのではないかと考えられる。また、客引き行為を行っている事業者側から、適正化協議会に参加したいという申し出があるなどの効果が表れている。」旨の回答があった。 (3) 公安委員講評 ○　北九州市が企業に対して行ったアンケート調査の結果で、北九州市の繁華街を利用していると回答した企業が大幅に増加しているのは、警察による工藤會対策を地元住民が評価し、警察と一緒に北九州を良くしていこうということの表れだろうと思う。そういう意味で、通報件数が増えたことは必ずしも悪いことではないと評価している。 ○　これも県警の三大重点目標のひとつである暴力団の壊滅に向けたひとつの大きな取組だろうと思う。昨年発足したこの取組を、今後も引き続き拡大し参加者を増やしてもらいたい。 **２　行橋警察署協議会の活動報告（行橋警察署協議会会長）** (1) 警察署長の諮問機関としての取組について ○　協議会開催時のみならず、あらゆる機会をとらえた諮問に対する提案を実施 ○　被害者支援に関する社会気運を醸成するため、「ひまわりの絆プロジェクト」を紹介し、京都府警からひまわりの種を取り寄せ署庭に植栽 ○　交通事故防止に関する社会気運を醸成するため、交通遺児育英チャリティーゴルフを開催し、警察署協議会委員、交通安全協会委員、署長等が参加など (2) 質疑応答等 出席者から、「管内の安全・安心のために、協議会と警察署がしっかりと連携

（Ａ４）

議　事　概　要

し、諮問機関として良く機能していることが分かった。特に、交通事故抑止やマナーアップを広く伝える方策としての交通遺児育英チャリティゴルフの開催については、感心させられた。当協議会も、昨年「高齢者の交通事故防止対策」について署長から諮問を受け、答申した。交通事故防止は県下全体の問題である。皆さんと議論を重ね、知恵を出し合って対応していきたい。」旨の意見があった。

(3) 公安委員講評

○　幅広く身近な活動をされているという印象を受けた。

○　公安委員会も警察学校で若手警察官と対話をする機会を設けているが、真摯に聴いてもらえており、このような活動が若手警察官の今後の活躍や、不祥事の防止に繋がるのではないかと考えている。

○　ひまわりの苗を植えるといった、子どもでも参加できるような、地元に根付いた活動をすることは重要である。

○　また、警察署協議会単独ではなく、さまざまな関係団体と協力して取り組んでいることもすばらしいと感じた。

３　うきは警察署協議会の活動報告（うきは警察署協議会委員）

(1) 交通事故抑止に向けた取組について

○　国道の交通環境を改善するためにバイパスが新設されたものの、信号停止回数が多く所要時間がかかるため、利用者が伸び悩んでいた。

○　警察署協議会として、管内の交通環境を把握するため、交番・駐在所の視察や交通安全施設の実地調査を行った。

○　交通規制を理解するために、交通管制センター等の視察を行った。

○　協議会委員と警察署が協働して、住民へのバイパスの積極的な利用の呼びかけや、バイパスの信号機の調整を実施

○　取組の結果、バイパスの信号停止回数が減り所要時間が減ったことにより、国道ではなくバイパスを利用する車が増加。その結果、国道及びバイパスでの交通事故が大幅に減少し、過去５０年間で交通事故が最少となった。

(2) 質疑応答等

出席者から、「当協議会において、委員から「表示板が一方向にしか設置され

（Ａ４）

議　事　概　要

ていない時差式信号機がある。」旨を警察署に伝えたところ、警察本部の対応により、現在は、県下全ての時差式信号機に双方向の車線から確認できる表示板を取り付ける措置が取られた結果、交通の運行が改善された。当協議会としても、本日の報告を参考にして、今後も交通事故抑止に取り組んでいきたい。」旨の意見があった。

⑶　公安委員講評

○　道路環境について、警察で全てを把握できるわけではないため、住民からの要請に基づき、うきは警察署協議会がこれを取り上げて対策に取り組んだ点は非常に意義深いものである。

○　結果についても数値に明確に表れており、見事な活動である。

○　警察署協議会として、住民の様々な意見を汲み上げて、警察と協働してさらに安全で安心なまちづくりに取り組んでいただきたい。

○　地域住民の要望を受けて、警察署協議会と警察署とが一体となって、地道に改善に向けて取り組んだ結果、大変すばらしい成果を生み出した、ということがよく分かった。

○　報告資料も写真入りで非常に分かりやすくまとめられており、模範的な活動報告であり、引き続きがんばっていただきたい。

【全体質疑】

○　出席者から、「ニセ電話詐欺について、加害者に若年層が多いが、このことについて県警としてはどのような対策を行っているのか。」旨の質疑があり、生活安全部長から、「若者が加害者とならないための対策として、まず、「暴排先生」が、高校・中学などの学校教育を通じた防犯教育により啓発を行っている。また、県警の少年サポートセンターにおいても少年の非行防止とあわせて、加害者とならないための指導・教育も行っている。」旨の回答があった。

○　出席者から、「他県において、好意を持たせた女性に借金をさせ、風俗店で働かせるという事案が問題となっているが、北九州市ではそのような事案は発生しているのか。」旨の質疑があり、暴力団対策部長から、「現在、福岡県内において

（Ａ４）

議　事　概　要

は、そのような事案は認知していない。全国的にそのような事案が問題になっていることは承知しているため、認知すれば速やかに対処する。」旨の回答があった。

○　出席者から、「小倉北警察署協議会の報告の中で、客引きが大幅に増加している、ということであるが、暴力団が関与しているという情報はあるか。」旨の質疑があり、報告者から、「客引きに関する110番通報件数が急増したということであり、客引きに関する適正化協議会や警察の活動が広く認知されてきた結果であると考えている。」旨の回答があった。また、暴力団対策部長から、「違法な風俗店の客引きに関しては、暴力団の関与も予想されることから、そのような事案に対しては、生活安全部と連携して今後も取締りを行う。また、居酒屋による客引きについては、風俗店の場合と状況が異なるものの、苦情が増加していることから、小倉北署が中心となって適正化協議会を立ち上げ、対応している状況であると認識している。」旨の回答があった。さらに、公安委員から、「北九州においては、かつて、暴力団からの報復を恐れて、何も言わない、関わりたくないという雰囲気があったが、県警による頂上作戦以降、暴力団は影を潜め、何かあれば警察がすぐに動いてくれるということが、広く知れ渡り、安心して様々なことを話せるようになった。北九州の街をより良くするために、住民や警察が大変良くばんばってくれていると思う。」旨の意見があった。

【閉会】

（Ａ４）